

平成30年度 学力向上を図るための全体計画

大田区立矢口東小学校

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 小学校学習指導要領
- 小学校設置基準
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標 等

大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

○自ら学ぶ子（重点目標） ○心豊かな子 ○たくましい子

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 期待される児童像

- 各教科の指導の重点
- 国語
言葉の学習を中心に言語感覚を養い、適切に表現する力と思考力を育てる。
 - 社会
社会事象に関心をもたせ、資料活用力を向上させ、知識理解の確実な定着を図る。
 - 算数
基礎的な計算能力を確実に身に付ける。習熟度別少人数学習を通して数学的な見方・考え方を育てる。
 - 理科
科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立て学習する。
 - 生活
いろいろなことを体験し、見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。
 - 音楽
音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。
 - 図画工作
個性を生かし、創造的に造形活動ができる基礎力の育成を図る。
 - 家庭
生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。
 - 体育
様々な運動をバランスよく取り組み健康の維持・増進を目指す。

学校経営の基本方針

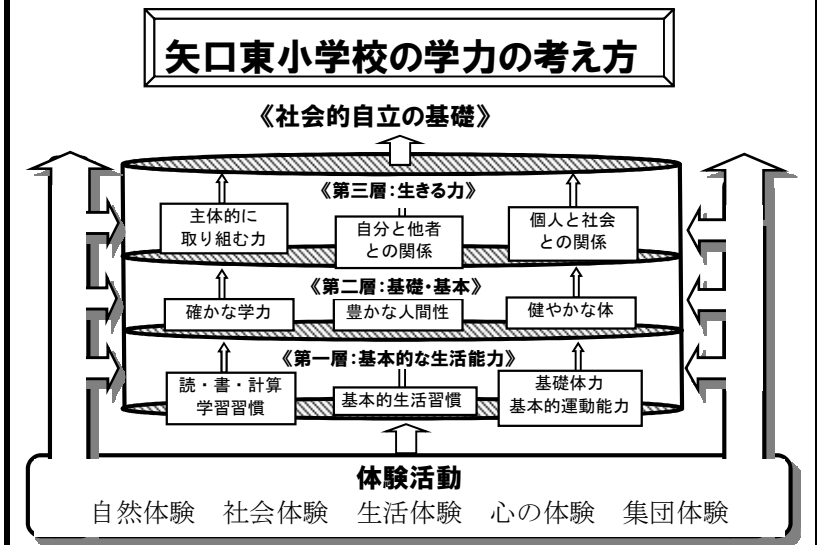
「信頼される学校」「地域とともに歩む学校」を目指し、地域・保護者との連携を深めるとともに、日々の教育活動を通して「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」に取り組んでいく。

- 外国語活動の重点
- ・コミュニケーション能力の伸長

- 総合的な学習の時間の指導の重点
- ・自ら学習課題を見付け解決する態度
 - ・探求型の学習活動の推進

- 本校における学力向上のための基本方針
- 個に応じた指導と学習習慣・学習規律の確立により基礎・基本の確実な定着を図る。
 - 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業の質の向上に努める。
 - 国際理解教育と外国語活動の推進を図る。
 - 地域の資源や人材を積極的に活用して体験的な学習を推進し、様々な事象に関心を持ち、問題を発見する力を育成する。
 - 読書活動を推進することにより読解力の基盤の育成に努めるとともに、校内研究を通して表現力向上に取り組む。

- 道徳教育指導の重点
- ・基本的生活習慣
 - ・豊かな心の育成
 - ・生きる力の育成
 - ・道徳的実践力の定着



- 特別活動の指導の重点
- ・代表委員会、委員会活動の充実
 - ・教科・領域等の関連
 - ・児童による学校行事の企画立案
 - ・異年齢集団での交流

- 【知育】学習規範や基礎的・基本的な知識・技能の定着により、きめ細やかな指導を行う。楽しく分かる授業の実践を進めながら『自ら学ぶ子』を育てる。
- 【徳育】学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成を進める。
- 【体育】健康安全指導や保健指導の徹底を図る。体力・健康意識の向上を地域、保護者と連携し広めていく。健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、授業改善を図るとともに、『たくましい子』の育成に努める。
- 【体験活動】体験活動は、学びの基であると捉え、感動する機会を多く設定するとともに、各教科などで学んだものの実践・活用を図る。また、基本的生活習慣や集团的行動で身に付けるべき基礎・基本を体得させる。

- 生活指導の重点
- ・「矢東小のやくそく」の徹底
 - ・全教職員の児童理解共通実践の徹底
 - ・避難訓練、防犯訓練等の実施

- 進路指導の重点
- ・体験学習を通じた人間としての生き方
 - ・保護者等との連携
 - ・将来にわたって夢や希望を抱く指導

矢口東小学校の授業改善に向けた視点

個に応じた指導体制	学習習慣の確立	基礎・基本の確実な定着	授業の質の向上	授業時数の確保	評価活動の工夫
○複数指導体制の整備 ○算数科での全学年習熟度別少人数指導 ○専科教員による指導と1～4年の副担任制度	○矢東学習スタンダードと家庭学習のすすめの徹底 ○早寝・早起き・朝ごはん月間と子どもの心サポート月間の取組	○東京ベーシックドリルとステップ学習による繰り返し学習と反復練習 ○補習教室（放課後25回、土曜6回） ○学習カウンセリング実施	○外部人材の活用による問題解決学習と体験学習の充実 ○校内研究（年6回の授業研究等）による表現力の育成	○振替を設けない土曜授業の実施（年10回）	○授業改善推進プランの検証 ○全児童、全家庭を対象とした評価の実施と活用